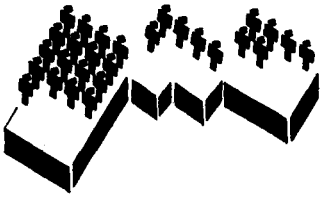

会員近況

川崎製鉄(株)
千葉製鉄所システム部　高橋いずみ

掛長になったのが今年の4月．学卒女性初の掛長という珍しさもあって，周囲は大騒ぎ．「高橋さん，新聞社からインタビューがあるので準備したほうがいいよ」と多くの男性諸氏に言われて，ついその気になってしまった．さて，記者の質問にどう答えようか，ヘアスタイルはどうしようかなどと本気で考えていたが，いつまでたっても一向にお呼びがかからない．最初のうちは，今日か明日かとドキドキ緊張していたが，そのうち仕事に追われてすっかり忘れてしまった．

考えてみれば，男女雇用機会均等法案がマスコミでクローズアップされるほど女性の社会進出ぶりがめざましい今どき，一企業の女性掛長誕生ぐらいで新聞社が押しかけてくるわけがない．とはいえ，私が入社した当時は女性の職業意識は今ほど高くはなかったし，女性というだけでニュースになるような一頃もあっただけに今回の騒ぎはよくわかる．それにしても迂闊であった．

あとにつづくうら若き女性ORワーカーの皆さん，くれぐれも殿方の甘い言葉に惑わされることのないよう，がんばってください．

上智大学理工学部
機械工学科管理工学講座　今井　良夫

最近人に「あなたの専門はいったい何ですか？」とよく尋ねられるようになった．研究上の都合でいろいろな学会や研究会に参加させていただいているせいなのか，機械工学科の管理工学講座なるものが正体不明の存在なのか，経歴が防衛大学校航空要員応用物理学専攻，慶応義塾大学経済学部，上智大学大学院経済学研究科経済学専攻，同経済制度組織専攻，そこで工学から経済学へ転向したのかと思っていたら，こんどは勤め先は理工学部機械工学科で，いかにも支離滅裂な人間に見えるのか，だいたいこの3ケースである．

したがって，ずいぶん親しい方でもこのうち少なくともひとつぐらいは疑問に感じておられる様子．とうとう会員近況の原稿依頼までいただいてしまった…？　そこで，これはよほど上手に書かねばと思わず力がはいってしまう．

「この十数年つづけてまいりましたのは安全保障システムの経済学的側面からの研究でありまして，防衛支出や農業投資などのシステム工学，あるいはOR的分析であります．あいかわらず今もつづけておりますので，さまざまな関連分野の方々にはいろいろお世話になりますが，今後ともよろしくご指導いただけますようお願い申し上げます」

住友建設(株)
静岡支店工事部工務課　安沢紳太郎

現在，私が勤務しているところでは，現場から発生する毎月の発生原価を把握し，さらに今後の原価予想，利益率の把握等を主として行なっております．最近ようやく景気も回復のきざしを見せているようですが，建設業界では依然倒産が続出しており，10月は1888件と前年同月比で5.7％増えています．そういった状況の中で企業が生き残るためには，今までの方法，形態を見直す必要があります．

ORとの縁ができたので，今後実務担当者としてORをいかに会社に生かせるかという課題をもって業務にとりくんでいきたいと思っています．

ところで最近パソコンの普及がめざましく，業務のOA化が進んでいますが，電算化を進めるうえでどうしても通らなければならない現実とのギャップの問題には非常に頭を悩まされます．同じシステムでも業種や地域性に大きく左右され，簡単にはシステム化を進めることができません．

ORもこれと似た問題をもっているかもしれませんが，前述のような状況のもとでは，どこかで発想の転換をはかる必要があり，ORはその期待に応えてくれるものと信じています．

農水省
農業総合研究所経済政策部　稲葉　弘道

食料の需給問題について計量経済分析を行なっています．現在，牛肉の需給モデルを共同で開発しています．牛肉の需給については日米経済摩擦の1つとしての輸入自由化の問題があり，本モデルも自由化等の影響を予測するためのモデルです．

現在興味あることは計量モデル開発とともに，パソコンにも向いています．今回の作業に32ビットのスパーパ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

ソコンと16ビットのパソコンを使用しました．スパーパソコンでは大型計算機用に開発したシステム（FORTRAN)を，パソコンには従来8ビットパソコンに開発していたシステム(BASIC)を使った．これらのプログラムは，森敬氏のEMSや日経のMARSのようなインタラクティブな処理を可能とするシステムをめざして開発したものである(ただし，すべての機能を満たしているわけではない)．計量経済分析においては，同時推定法などの莫大な計算量をともなう手法を用いないかぎり現在のパソコンでも十分であり（将来は同時推定法等も可能であろう）パソコンの利点をいかしグラフィック機能等を利用すれば，きわめて効率的にモデル開発が可能であった．

計量経済モデルについては，近年その予測力の低下が指摘されるが，この問題点の1つとしては構造不変，つまりパラメーター一定という点にあると考え，赤池氏のABICを利用したベイズ型回帰モデルによる分析を行なっている．(ただし，牛肉モデルでは使っていない)

会合記録

（　）内は出席者人数

支部長会議	11月2日(金)(16)
モニター会議	11月4日(日)(16)
庶務幹事会	11月6日(火)(5)
編集委員会(OR誌)	11月7日(水)(9)
IAOR委員会	11月8日(木)(2)
普及委員会	11月12日(月)(4)
表彰委員会	11月13日(火)(7)
視察団座談会	11月14日(水)(6)
国際委員会	11月15日(木)(7)
広告委員会	11月27日(火)(3)
研究普及委員会	11月29日(木)(7)
理事会	11月30日(金)(16)

第4回理事会議題

(59.11.30)

1. 庶務関係
   1) 第3回理事会議事録承認の件
   2) 入退会の件
   3) 会員増強の件
   4) 支部長会議開催報告
2. 研究普及関係
   1) 第12回シンポジウム開催報告
   2) 秋季研究発表会開催報告
   3) 1985年春季研究発表会の件
   4) 研究部会・グループ新設・継続申請の件
   5) 定例講演会開催報告と予定
   6) 第5回ORセミナー開催報告
   7) 第10期モニター依嘱の件
   8) 第2回国際経済経営会議開催の件
3. 国際関係
   1) IFORS 投票の件
   2) APORS の件
4. 編集関係
   1) OR誌12月号，1月号の企画
   2) JORSJ の現状報告
5. 表彰関係
6. 日本学術会議/FMES 関係
7. 協賛依頼の件(2件)
8. その他

編集後記▶いよいよ新しい年の幕開けとなりました．かつて，昭和60年を目標とした長期計画が各所で策定されました．それに比べて実際の今年はどうなりましょうか．高度情報化が言われはじめて数年が経過しましたが今年は本格的に動きはじめることになるでしょう．時代の流れは今まで以上に早く，そして1つの現象が現われて消えるサイクルは短く，それだけ確かな目で社会を見る力が必要となりましょう．▶またもう1つのわが国にとっての大きな流れ，国際化，もますます身近に感じられるようになってまいりました．新年第1号の特集「第三世界とマイコン」はまさに今の時代にマッチしたテーマであります．ORの対象領域もそれだけ幅広くなったということでしょうか．（J）

オペレーションズ・リサーチ

昭和60年1月号　第30巻（新シリーズ第10巻）1号　通巻289号
代表者　近藤次郎
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2—4—16　学会センタービル
(電話　03-815-3351～2)　〒113
編集人　牧野都治
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ケ谷5—4—2　〒151

本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ　定価　850円（郵送料含）年間予約購読料 9600円（郵送料含）
本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548），日経弘報社（563-2241）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．